

瑞穂町文化財保護審議会
令和 3 年度委員視察研修報告

- 1 日 時 令和 3 年 1 1 月 1 1 日 (木)
- 2 目 的 文化財保護審議会委員の資質向上を図る。
- 3 参加者 10 人
文化財保護審議会 (7 人) 事務局 (2 人)
会 長 平山 和治 主 査 上出 貴之
副会長 塩島 清志 主 任 谷亀 高広
委 員 会田 宏・川鍋 悦子・池谷 功・久保田 吉範・大久保 伴季
- 4 目的地 藤橋城址・報恩寺・塩船観音・勝沼城跡・天寧寺・乗願寺・金剛寺
海禅寺・七兵衛公園・宗建寺・旧吉野家住宅
- 5 交 通 庁用車 (運転: 上出・谷亀) ※ 2 台分乗
- 6 行程と研修内容
【午前】
けやき館に集合→藤橋城址→報恩寺→塩船観音→勝沼城跡→天寧寺→昼食
【午後】
乗願寺→金剛寺→海禅寺→七兵衛公園→宗建寺→旧吉野家住宅→けやき館

※例年 1 泊 2 日で実施する研修となっているが、新型コロナウイルス感染拡大防止を勘案し、今年度は近隣自治体の青梅市にある文化財について日帰りで学ぶ研修としました。青梅市は文化財が数多くあり、有意義な研修となりました。

【午前】

(1) 藤橋城址 (8:30~8:40)

8時頃、けやき館を出発し、最初に到着した研修地。この地は16世紀頃、北条氏照の家臣、平山虎吉の居城があったと伝わっている。現在、城の北側は水田が広がり見晴らしがよく、城の南側には住宅地が広がっています。公園として整備され、委員は堀や居館の跡地などを見学しました。



藤橋城址見学の様子

(2) 報恩寺 (8:50~9:00)

青梅市内唯一となる天台の古刹で、元享2年(1322)、三田清綱により再興され、その後は、藤橋城主・平山重吉により再興されました。境内には14世紀に建立された2基の青色石卒塔婆があり、見学することができました。



報恩寺視察の様子

(3) 塩船観音 (9:10~10:10)

大化年間(645-650)、若狭国の八百比丘尼が千手観音像を安置したことに始まるとされ、鎌倉期になると武蔵七党の流れを汲む金子氏の庇護を受けました。室町期には青梅・奥多摩地方に勢力を持っていた三田氏の帰依を得て栄えたと伝わっています。仁王門、薬師堂、本堂、胴鐘、青石塔婆(大板碑)などを見学しました。



塩船観音の見学の様子

(4) 勝沼城址 (10:20~10:50)



勝沼城址を示す案内版

室町期にこの地方を治めていた三田氏の居城だったと伝わっていますが、三田氏が北条氏照に滅ぼされ、その後は北条氏の家臣であった師岡山城守が城主となりました。その際城の名前も「師岡城」に改称されました。その後、豊臣秀吉の関東征伐の際、廃城になったと言われています。勝沼城址には駐車場がないため、妙心院の駐車場に車を止め、1分程度徒歩で坂道を上り、空堀と曲輪の跡を見学しました。

(5) 天寧寺 (11:00~11:50)

曹洞宗の寺院で、創建時は真言宗高峯寺であったが、のちに勝沼城主 三田氏宗が甲州中山の広巖院二世一華文英を開山に招いて再建したとされています。江戸時代には寺領20石の御朱印状を幕府より拝領していました。委員は戸田政定による寄進の梵鐘、本堂などを見学しました。



梵鐘を視察する委員 (左) と天寧寺本堂 (右)

【午後】

(6) 乗願寺 (12:50~13:20)



勝沼山と号し、三田長綱が日輪寺の平将門供養の席に列した際、時宗2世他阿真教上人に会い、上人を開山に迎えて正安2年(1300)に創建したとされる。三田氏滅亡時の戦火や、豊臣秀吉の小田原攻めの際などに焼失したが、慶長年間(1596-1614)に24世覚阿性海が再建。慶安2年(1649)徳川家光より朱印状を拝領している。委員は境内を見学しました。

(7) 金剛寺（13：30～13：40）

山号は「青梅山」、院号は無量寿院、本尊は不動明王。承平年間(931－937)に、寛空僧正が開山したと伝わり、境内には開基である平将門ゆかりの「将門誓いの梅」があり、「青梅」地名の由来となっています。その後、元享年間(1321－1324)に頼遍上人が中興し、三田氏、後北条氏、徳川氏の庇護を受けました。委員は東京都指定文化財の表門や、境内の青梅などを見学しました。



金剛寺表門（左）と青梅を観察する委員（右）

(8) 海禅寺（13：50～14：20）

寛正年間(1460－1466)に、一州正伊が開山したと伝わり、第5世住職・太古禅梁の代に辛垣城主の三田綱秀の帰依を受け、三田氏の菩提寺となりました。その後、後北条氏の台頭により三田氏は滅んだが、そのまま墓は残されています。研修では、海禅寺に隣接する辛垣城の跡地の急峻な斜面や、三田氏一門の供養塔を見学しました。



海禅寺山門（左）と三田氏一門の供養塔（右）

(9) 七兵衛公園 (14:30～14:40)

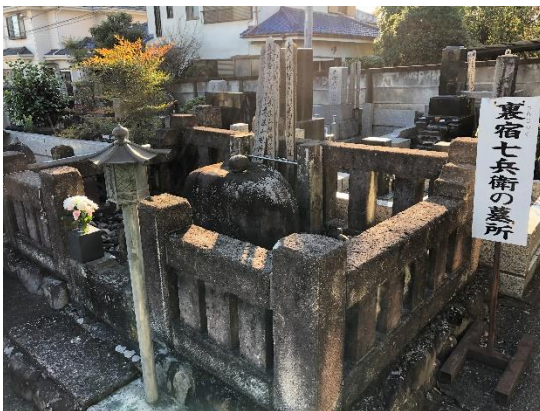


七兵衛公園前の石碑

青梅市に実在した義賊、裏宿七兵衛の居宅跡とされる場所に立ち寄りました。現在では公園になっており石碑があるのみで、義賊として知られた七兵衛についての案内看板があるのみとなっています。説明書きによれば、七兵衛はたいへん足が速く、居宅から遠く離れた場所で夜間盗みを働き経済的弱者に金銭を配り、昼になると居宅近くで畑仕事をしていた旨が記されていました。

(10) 宗建寺 (14:50～15:10)

15世紀前半に建立された寺院で、開山は浄土宗の僧侶、一蓮社堯誉宗公上人とされています。2世一翁祖連禅師が住職を務めていた時期に臨済宗へ改宗しました。境内には裏宿七兵衛の墓があります。足の速かった七兵衛の御利益から、お参りすると足腰が丈夫になるとの伝承があります。また七兵衛の墓の近くには、当時青梅において国学者、歌人として知られた根岸典則の墓もあり、委員は二人のお墓を見学しました。境内にはマキの巨木があり、古刹ならではの雰囲気がありました。



七兵衛の墓 (左) と庭のマキの巨木 (右)

(11)旧吉野家（15：20～15：30）



旧吉野家の外観

武蔵国の豪族、成田氏に仕えていた吉野氏が青梅において帰農し、江戸期になると地域の名主を代々世襲しました。昭和50年（1976）に東京都の有形文化財に指定されています。委員は居館の中に入り、古民家を見学しました。

※郷土資料館けやき館へは、16時頃到着し、解散しました。